

ときつちよう　うちどく　すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん　む　ねん　ふゆごう
中学年向け　2025年　冬号



ときつちようりつときつとしょかん
発行：時津町立時津図書館

うちどく

家読とは

かぞく　みな　で　好きな　ほん　を　読んで、　よんだ　ほん
家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本
について話す。これが「うちどく（家読）」

です。むずかしいルールはいりません。
家族みんなでルールを決めてはじめてみま
しょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさん
やおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい
時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUKO



「マグルスウィックの森のおはなし」
ヴィッキー　カウイー／作　チャーリー　マッケジ
ー／絵　小宮　由／訳（主婦の友社）

イングランドの北東部、むらさき色のヒ
ースでおおわれた、マグルスウィックの森
での出来事。「森の魔法」に「ふしぎな
虫」「屋敷のひみつ」など、ワクワクする
お話が5つ。さあ、この赤い表紙を開い
て、マグルスウィックの森へいってらっし
ゃい。



「絵くんとことばくん」
天野　祐吉／作　大槻　あかね／絵
（福音館書店）

あなたはお小遣いをいくらもらってい
ますか？ この絵本は小学生の優太くん
が、お小遣いアップを訴えるポスターを
作るお話です。絵（くん）とことば（く
ん）それぞれが持つ力を発揮して、より
効果的なポスターを目指します。できあ
がってはボツになるポスターたち。それ
がとっても愉快なんです！はたして
出来上がったポスターはいかに？



「みんないっちゃった」
エーヴァ　リンドストロム／作　菱木　晃子／訳
（小学館）

フランクはいつもひとりぼっちで、同じ
ような毎日を繰り返しています。楽しそう
なあのこたちに話しかけたいけれど、勇気
がなかなかでません。いつものように、な
みだをなべにうけて、それを火にかけてい
ると、きょうはちょっとちがうことがおき
るようです。



「牛革のランドセルができるまで　手から
手へ、皮から革へ。」
上吉川　祐一／写真　文（文一総合出版）

みんなが毎日せおっているランドセルは、
「牛皮」でできている。そう、牛の皮のこと
ね。1匹の牛から、肉は食用になり、皮は
加工して、「革」になる。その革はカバンにな
ったり、洋服になったり、いろんな物に形を
変えて、利用されるんだ。「皮」が「革」にな
るまでのことが、くわしく書いてあるよ。

牛の「いのち」をいただいてできたランドセ
ル、大事に使いたいね。



「知ったかぶりをした日から」
かさい　まり／作　おとない　ちあき／絵
（岩崎書店）

東京から転校してきたばかりの私に、「ね
え、北川アオイにあったことある？話したこと
ある？」とクラスの子が聞いてきた。歌手で
女優の北川アオイがこの学校に撮影に来ること
になったからだ。私はとっさに「う、うん」
と言ってしまった。すると話はどんどん大き
くなり、北川アオイと私は知り合いというこ
とになってしまった。どうしよう…知ったかぶ
りをしたばかりに…。



「きょうのぼくはどこまでだって
はしれるよ」
荒井　良二／著
（NHK 出版）

朝日をあびると、なんだってできそうな
気がする。どこまでだって走れる気がす
る。本のページをめくるように、ぼくの
前には新しい毎日がつづいているから。どん
なにかなしい時も、どんなにさみしい時
も、朝はかならずやってくる。それはぼく
らと地球との約束だから。